

# 黒部川

黒部川流域は年間降水量約4,000mmという多雨地帯で、しかも河川の勾配が平均約1/40と、他に類を見ない急流河川です。そのため、早くから水力電源の宝庫として注目されてきましたが、人跡未踏の秘境とあって、電源開発は困難をきわめました。



## A 黒部ダム

黒部川最上流域に建設されたアーチ式ドーム越流型ダム。そのスケールの大きさと困難さから「世紀の大事業」と呼ばれた黒部ダム建設。黒部ダムの高さは186mで日本一です。



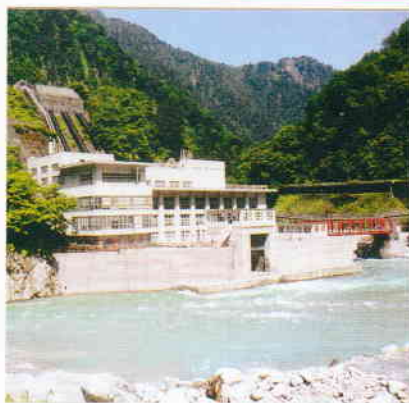
## B 黒部川第四発電所

「クロヨン」の愛称で親しまれています。発電所は、自然環境を守るため全て地下式になっています。



## C 黒部川第三発電所

過酷な大自然に挑み、わが国土木史上に残る難工事を克服して完成しました。工用軌道トンネルの掘削は、吉村昭氏の小説「高熱隧道」の舞台となっています。



## D 黒部川第二発電所

建築家・山口文象氏の設計によるもので、「富山の建築百選」に選ばれています。



## E 出し平ダム

「暴れ川」とも言われる黒部川では、大量の土砂が流出します。そのため出し平ダムでは排砂ゲートを2力所有し、堆積した土砂を流下させることができる構造になっています。



## F 新柳河原発電所

国土交通省宇奈月ダムの建設により水没した柳河原発電所（H5.6廃止）の代替として建設。「湖上に浮かぶ城」をイメージしています。



## G 宇奈月発電所

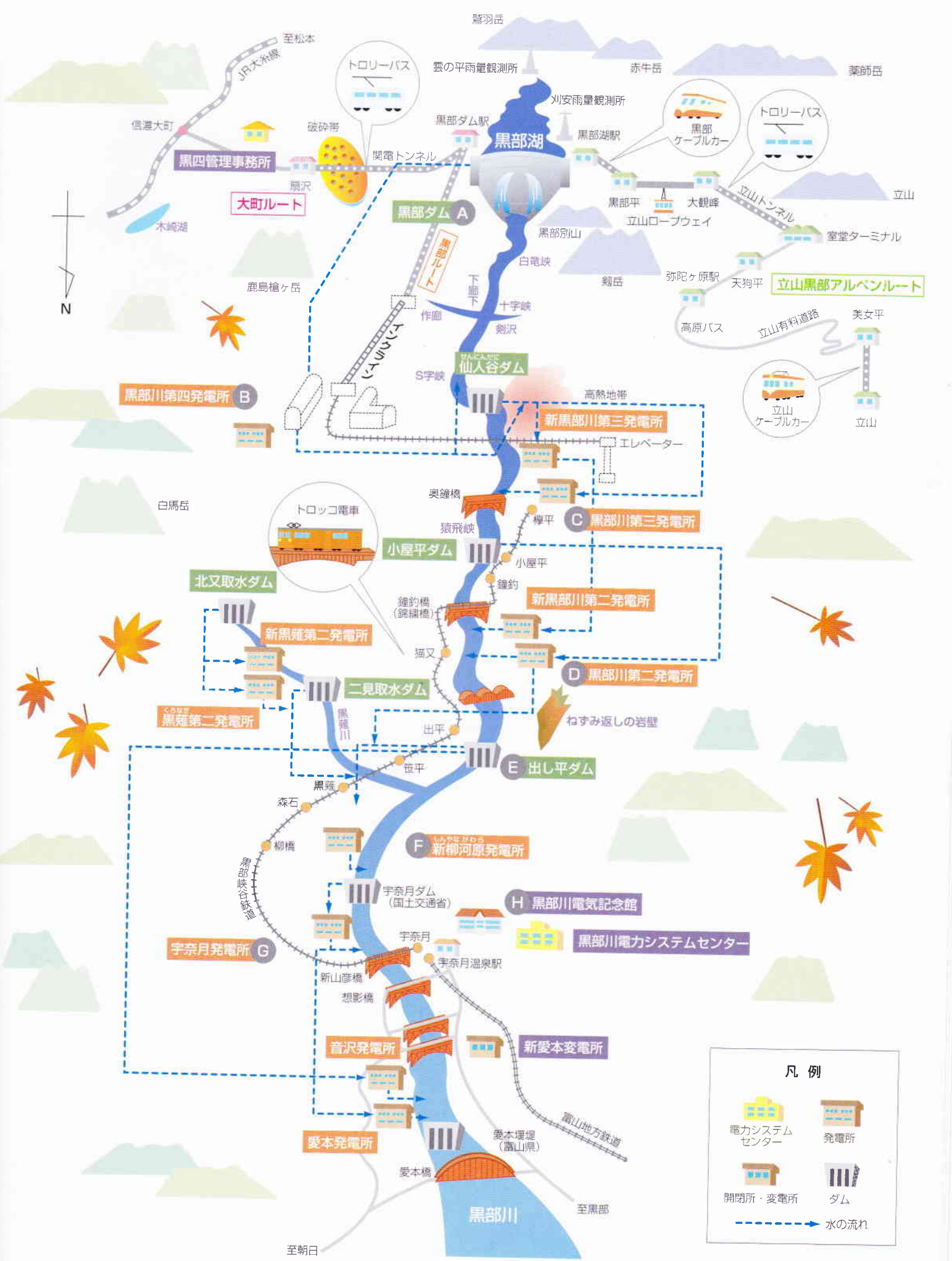
多目的ダムである国土交通省の宇奈月ダムから取水し、発電を行っています。



## H 黒部川電気記念館

厳しくも美しい黒部峡谷の自然と電源開発に挑んだ人間のドラマを、映像と模型で紹介しています。

[ 黒部川水系の発電設備概要図 ]



凡例

電力システムセンター	発電所
開閉所・変電所	ダム
	水の流れ